

# 広報 たてやま

発行/館山市役所  
編集/秘書課広報係  
館山市北条1145番地の1  
☎ 2-3111 (代表)

水は大切に使いましょう

節水にご協力ください  
水は限りある大切な資源です。大事な水を有効に使うようご協力ください。

水道特集

水道特集



↑昭和52年度完成をめざし工事が急ピッチで進められている作名ダム。総貯水量は63万トン

## 苦しい水道経営

厳しい実情にご理解を

水源・施設・財政

### 難問が山積

トン当りの給水で59円の赤字

水資源の乏しい当市は、夏になると観光客の急増などで、毎年のことながら水不足に悩んでいます。特にことしは先月末から各所で断水、減水をひきおこし、市民のみならずは大変ご迷惑をおかけし、深くおわび申し上げます。市民のみならずには大変ご迷惑をおかけし、深くおわび申し上げます。市民のみならずには大変ご迷惑をおかけし、深くおわび申し上げます。市民のみならずには大変ご迷惑をおかけし、深くおわび申し上げます。

### 深刻な水源不足

水需要、夏場に急増

四月に民営の「房州水道」を市営に移管した「中央水道」は、市中心部約五〇〇〇世帯に給水しています。

施設名称	給水人口	公称施設能力	1日最大給水量		不足水量	水源(補給水量含む)内訳
			推定	推定		
館山市水道	6,168	1,440	推定 2,100	推定 500	深井戸 6本 840㎡ 宮城ダムろ過池の状況600~1,100㎡ 西部簡水から補給 200㎡	
中央水道	18,228	6,000	推定 7,000	推定 1,000	深井戸 11本 5,500㎡ 山本かんがい用水 500㎡ 三芳水道から補給 700~1,000㎡	
南部簡易水道	4,412	942	1,760 (8月3日)	-	神余ダム 900㎡ 深井戸 4本 800㎡	
西部簡易水道	3,356	1,000	1,626 (8月2日)	-	深井戸 4本 800㎡ 大石かんがい用水 450㎡ 南部簡水から補給 350㎡	
計	31,363	9,382	推定 12,486	推定 1,500		

水道普及率 68%

現在、市内の水道は北条

館山を給水する「中央水道」西側、館山の一部を給水する「館山市水道」のほか、西部、南部の簡易水道があります。船形、那高、淡八幡の一部は、三芳村、富浦町と共同で設置している三芳水道企業団が給水しています。

水不足の抜本的解消めざし

### 急ピッチで進む作名ダム建設

完成は52年度末の予定

これら市営水道の水源は貯水池二、深井戸二三で、そのほとんどを深井戸に依存しているため、水の絶対量が不足しています。このように状況を鑑み、市営水道は、各施設の過剰に際しては、相互に援助し合って運営しています。とくに中央水道は、三芳水道から一、六〇円で買い、三七円で供給するといった苦しい給水を行っています。

この水源不足を抜本的に解消するために計画されたのが、現在、工事が行われている作名ダム。防衛施設庁の基地周辺整備事業と水源開発整備事業として国の助成を受け、昨年十二月に工事が始まり、市内豊房地区作名川上流の現地でダム建設が急ピッチで進んでいます。このダムは、総貯水量が六三万トンの中央溢流型重力式ダム。高さ二六、長さ一四七で、完成すれば一日最大四、四〇〇の水を浄水し、区域内の各家庭に送ることができ、配水施設工事も行われ、昭和五十二年年度には完成の見込み。市では一田も早い完成をめざし金力を投入しています。

この施設の公称給水能力は移管当時で一日六、〇〇〇ですが、実際には二、三年前から水源の絶対量が不足

このため三芳水道から、これまで一田最大、三〇〇の水の補給を受けていました。が、ことしは三芳水道でも夏の急激な需要の増大で、これまで通りの補給が困難となり水量を減らし、ため、今回のような深刻な水不足をひきおこす原因になりました。

一方、宮城、南条、西側の簡易水道は観光客の急増で水需要が急激にふえ、今夏も時間給水や断水をくりかえし、みなさんに大変ご迷惑をおかけしました。南部、西部簡易水道はフル運転で完全給水し、旧西側簡水へ最大限、補給しています。

### みずのねだん



(昭和49年度実績)

水道会計

雪ダルマ式にふえる赤字

◆53年度末で約10億円の見込み◆

一方、水不足にもまして深刻なのは水道企業の財政危機。水道企業は、公営企業として一般会計とは別に特別会計で予算がまわっています。

深刻な財政危機

50年度 予算段階で赤字

49年度 四、七八三万円不足

と、ダム建設や配水施設の設置や改良をしていくための収支(資本的収支)の二つに分けられています。昭和四十九年度の営業収

支は、収入三、一一七万円に対し支出は七、九〇〇万円、差引四、七八三万円の不足(赤字)になっています。昭和五十三年度末には実に

また昭和五十年(予算見込み)では、収入一億二、三〇〇万円、支出一億八、八〇〇万円、当初予算の段階ですべて七、六七八万円の赤字。前年度からの繰越赤字を合わせると一億二、四六二万円となり、さらに昭和五十一年、五十二年の赤字見込みを加えると、昭和五十三年度末には実に

約八億五〇〇万円、資本的収支を合わせると十億二、五〇〇万円の累積赤字になる見込みです。

ふえる借金

資本面での財源は借金や国からの補助金、一般会計からの出資金でなんとかかなえるものの、問題なのは営業収支。

水が二〇円、旧西岬、西部、南部簡水が三〇円、中央水道が三七円、三芳水道が七〇円と、同じ市内の水道でもまちまちな料金になっています。

昔から水と空気はタダでいくらでも手に入ると思われてきました。が、空気は「つくられるもの」。みなさんのお宅でじゃ口をひねれば出る水は、宮城の貯水池、神余の巴川上流にあるダム、佐野、西岬、山本や真倉の深井戸それに

三芳水道からそれぞれ莫大なお金をかけて届けられているのです。水の平均販売価格は三五円四〇銭で、一ノの水を売ることには五八四九〇銭の出血サービスとなり、この結果、昭和四十九年度一年間で四、七八三万円の赤字決算となっていました。

市民のみなさまへ

水道会計再建について

お願い

水需要が激増している反面、水源の確保が困難となり、館山市の水需給は年を追うごとに、ひっ迫の度を加えております。

このような状況のなかで当市は、市民の水の安定供給を確保するため、施設の拡張や維持管理に最大限の努力をしております。

しかし、近年における激しい物価上昇や大規模拡張事業の進捗にともなう起債元利償還費の増加などにより水道財政は悪化の一途をたどってきております。累積赤字は、昭和四十九年度末で四、五〇〇万円、昭和五十三年度には実に一〇億円を超えるものと見込まれます。

給水の安定確保は、水道事業の最大の使命であり、これを實現していくためには、財政の健全化が最も必要であります。

このため赤字分については、やむを得ず水道料金の改定をお願いすることにより、財政の健全化を図ることとし、近く市議会に提案し、ご審議いただくことといたしました。水道財政の再建について、市民のみなさまの深いご理解とご協力を切にお願いする次第であります。

昭和五十年八月十五日

館山市

館山市と近隣市町の水道料金

中央水道	37円
西部簡水	30円
南部簡水	30円
西岬	30円
宮城	20円
南条	20円
三芳水道	70円
浜川	70円
鶴川	68円
南山	67円
富山	100円
多喜町	84円

—50年7月現在—

水道利用者負担が原則

水道会計再建のみち

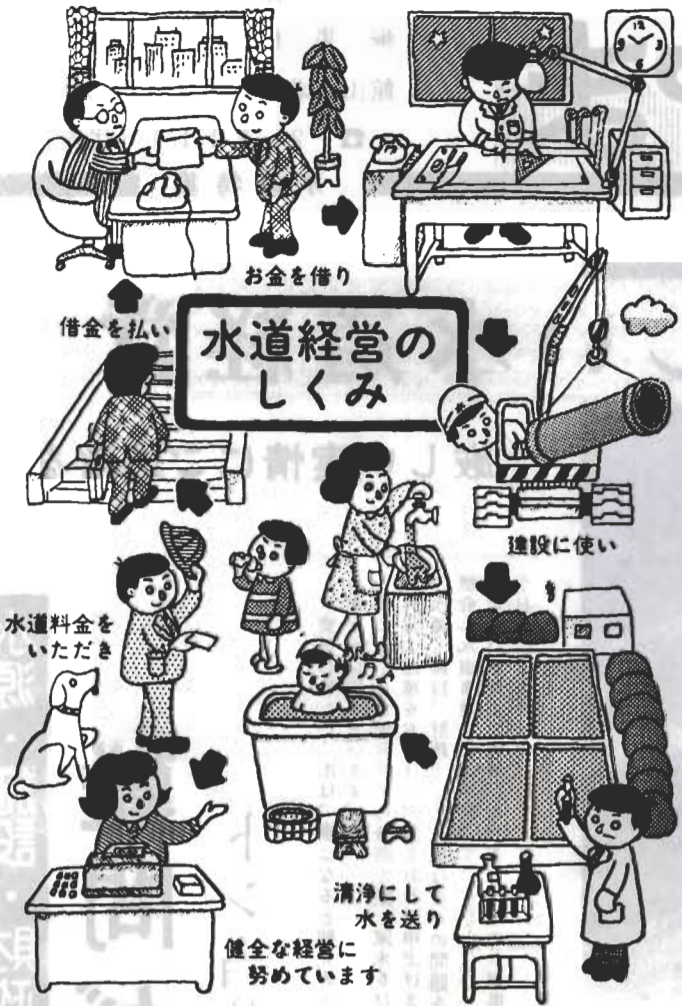
水道事業は公益事業で独立採算制が建て前。つまりかかった経費は、サービスに対する反対給付である料金でまかなうという利用者負担が原則です。

現在、市内の水道料金は一ノ当り、旧宮城、南条簡

適正な料金 改正が必要

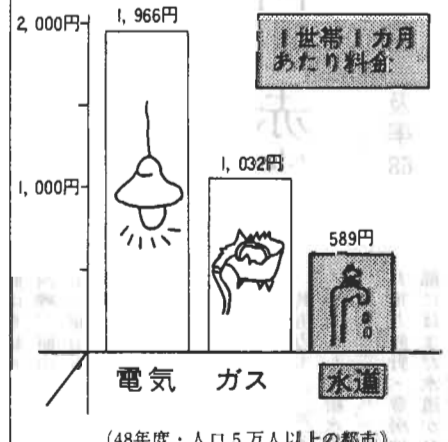
費はすべて料金原価に算入され適正な料金水準が維持されることが必要です。ちなみに昭和五十年(予算)の事業収益のうち、その九五%がみなさんの納める水道料金で占められ、水道事業のいちばん大きな収入源になっています。

給水の安定確保は、水道事業の最大の使命であり、これを實現していくためには、財政の健全化が最も必要であります。



＝水道料金は高くない＝

1世帯1カ月あたりの料金は、下のグラフの通りで、水道が最低です。家計費に占める割合は0.5%です。



つくられる水

＊

トン当り94円30銭